

# 「ゼロからの挑戦」今を大切に「」



2020年10月25日。無観客の中、春高バレー山梨県大会決定戦女子決勝が小瀬スポーツ公園体育館で行われた。カードは帝京第三VS東海大甲府。帝京第三は、2セットを先取される苦しい展開ながらも、3セット、4セットと連取。最終の5セットは一進一退の攻防となったが、セットカウント3-2で東海大甲府を下し、創部以来2度目となる「第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会」全国大会への出場を決めた。

## 上を向いて繋いで 帝京第三高校女子バレーボール部

## コロナ禍で練習できない苦難 立ち足はだかる高い壁を崩した

12月16日。前日、北杜市内では雪が路面をうつつすらと白く覆い初雪を観測した。凍てつく寒さのなか帝京第三高校の体育館では、大きな声を出して鼓舞する女子バレーボール部総勢28名が、1月5日の全国大会に向け練習に励んでいた。

帝京第三高校女子バレーボール部はおよそ20年前、看護科の廃止に伴い女子が少なくなることを危惧した学校側が、女子のスポーツ部を強化しようと設けられた部が女子バレーボール部。地域的に韮崎・北杜と長野県を視野に入れて部員を獲得するため、当時、長野県の教員バレーボールチームで国体に出場経験のある依田哲也さんに監督としての白羽の矢が立った。

着任してすぐ女子バレーボール部を創部。その僅か2年後、素晴らしい選手を従え全国大会に出場するまでに飛躍。その後もインターハイや選手権など着実に実績を挙げ、山梨を代表する女子バレーボール部に成長していった。



依田哲也さん  
帝京第三高等学校生徒指導部部長、保健体育科教諭、女子バレーボール部監督

「突然の休校で、私も準備ができていなかった。休校の期間は短いだろうと高をくくっていました。それが延長、延長となり、1ヶ月、2ヶ月が過ぎてしまいました。生徒たちには自己管理のもと、毎日のトレーニングをラインで報告するように指示はしましたが、あんなに長く休校になるのなら、リモートとか違う方法があったのではないかと反省しています」と依田監督は、この時期をこう振り返る。

しかし、休校明けに集まった部員たちを見て「筋力などは衰えていない。みんな高い意識でトレーニングをしてきた証拠」と感じたという。

多くの試合が中止になる中、目標を春高バレー山梨県大会に定め練習を再開し、7月下旬に行われたインターハイの代替試合と9月の秋季大会では、準優勝を手にした。出場高校の中には、この大会を最後に、3年生が引退する学校もあるそうだが、依田監督はあくまで10月を照準に当てる。

こうして挑んだ決勝。選手達にとってあってほしいであろう応援もない無観客の中で、強豪相手に見事優勝を果たした。



中村風花さん (1年生)  
高根町在住  
高根西小学校▶高根中学校

帝京第三女子バレーボール部は雰囲気良く、上手になりたいと入部した憧れの部です。いつか小学生のときからの仲間たちと一緒にコートに立ちたいと思います。

川端下り子さん (1年生)  
高根町在住  
高根西小学校▶高根中学校

兄も日本航空高校男子バレーボール部で、兄妹揃って全国大会に出場します。1年生なので試合に出られませんが、全国の空気を肌で感じて、今後に繋げていきたいと思っています。

中山優希さん (3年生)  
マネージャー  
武川町在住  
武川小学校▶武川中学校

休校期間中は姉と一緒にトレーニングしましたが、家の中でレシーブやトスの練習をして父に怒られました(笑)。残りの日々もチームの支えになりながら、頑張ります。

内藤愛香さん (3年生)  
市在住  
甘利小学校▶韮崎市立西中学校

帝京第三の女子バレーボール部の雰囲気が好きで入部しました。残り少ない時間を精一杯バレーに打ち込みます。

岩間響さん (3年生)  
キャプテン  
甲府市在住  
湯田ミラクル JVC▶甲府市立南中学校

インターハイの代替試合と9月の秋季大会で優勝を逃したことが悔しかったです。最後までみんなを引っ張りながら粘りのプレーで頑張ります。